

**朝鮮核実験禁止は不法  
核大国の究極の偽善**

正義の世界のための国際運動チャンドラ・ムザファー会長は、朝鮮の核実験を非難する核大国の偽善を糾弾するコラムをグローバル・リサーチに発表した。(以下要旨)

米、露、中が、いずれの核大国も全面的核軍縮に向けた行動を取っていない中で朝鮮に対し核実験を行わないように要求するのは究極の偽善である。

もはや世界の市民は核兵器と大量破壊兵器の全廃に向けて大規模な世界的キャンペーンを開始すべきときがきた。

予想された通り、朝鮮の指導部は国連安保理の新たな厳しい制裁に対する非難を強めている。

国際社会が朝鮮の行為について何か語る度に、朝鮮はワシントンやソウルを「攻撃」と脅すような反応を見せる。今回、朝鮮は射程 100～150 km の 6 発のロケット砲を東海岸方向に発射したと言われる。これは南朝鮮に対する警告を意味する。

ほとんどのアナリストは「ただの見せかけ」と片づけている。朝鮮は最近の国連安保理決議に以前よりももっと強い怒りを感じているであろうが、それ以上の行動に出るとは誰も予測していない。

今般の決議はこれまで朝鮮に科した制裁の中で最も厳しいものである。そこには鉱物輸出や朝鮮の国際交通システムへのアクセス遮断も含まれている。

これは国連安保理の対朝鮮制裁としては 5 度目になる。最初のは 2006 年の核爆発装置の実験を受けて決議された。

とりわけ中国が厳しい制裁を支持したことは、中国が真の同盟国ではないことを知っている朝鮮を傷つけた。

それは、中国が朝鮮との対話を開始する重要性を強調する一方で自分の同盟国に対する制裁を支持したからだ。

中国政府は、もしも朝鮮をさらに孤立させればもっと不合理で攻撃的な行動に出ると認識している。

ロシアは、対話を優先させるべきだと考えており、包括的な制裁が朝鮮政府をして隣国や米国のような関係国との真剣な会談の開始を促すことを望んでいる。

中露両国にとって対話はさらにもう一つの理由で不可欠である。両国は、朝鮮による 1 月の核実験と 2 月の長距離ロケット打ち上げによって醸し出された情勢が、南朝鮮と米国がこの地域における軍事的掌握を強化するために利用されることを恐れている。

事実、高性能の米国製ミサイル防衛システムの南朝鮮配備についてソウルとワシントンの間で公式的な会談が始まった。

THAAD(高高度防衛ミサイル)システムは、敵のミサイルを最終段階で大気圏の内側もしくは外側で迎撃粉碎するというもの。

中露はこの THAAD システム配備に強く反対している。理由は、この地域における軍事的バランスに悪影響を及ぼし、主要な二国間問題ですでに対立している関係国間の緊張を増大させるからである。

詰まるところ、北朝鮮と南朝鮮、中国と日本、ロシアと米国が直面している真の挑戦は、北朝鮮の見せかけの行動や国連制裁の有効性とそれほど関係はないのである。

公式の「核クラブ」メンバーではない国に対して核保有を思いとどまらせる唯一の方法は、すべての国が例外なく貯蔵されている核兵器を廃棄し、核兵器をはじめ全ての大量破壊兵器の製造を止めることである。